

朝鮮音楽史・金日成崇拜の歌 1

(1945 年-1946 年) 山根 俊郎

はじめに

戦後、社会主义国では指導者の個人崇拜が広まった。本家のソ連のスターリン、中国の毛沢東、ベトナムのホーチミン、キューバのチェ・ゲバラ（カストロは生前に自分の個人崇拜を許さなかった）等である。

北朝鮮の場合は、初代の金日成（キム・イルソン）、二代目金正日（キム・ジョンイル）そして現在の三代目金正恩（キム・ジョンウン）まで個人崇拜が続いている。

北朝鮮では、金日成から金正日、金正恩に続くローヤルファミリーに対する個人崇拜のプロパガンダを通じて独裁的な統治を行ってきた。

今回からシリーズで「朝鮮音楽史の中で金日成がどのように崇拜されてきたか？」を見ていきたい。

私が仮説として考えているのは「個人崇拜は最初、軽微であるが、金日成が政敵を肅清して権力基盤を固める過程でひどくなってしまい、1967 年の唯一思想体制の確立により最高潮に達した」である。当時に発表された楽譜の歌詞を紹介しながら証明したい。

参考映像

金日成が独裁体制を作る過程をある TV ドキュメンタリー番組が丹念に描いている。

NHK スペシャルドキュメント北朝鮮第 1 集 「個人崇拜への道」2006 年 4 月 2 日(日)午後 9 時 00 分~9 時 59 分 (59 分間) 冷戦崩壊後、多くの社会主义国が消滅した中、今も体制維持を続ける北朝鮮。その強固な体制の秘密は何か、どのようにして作り上げられたのか。

私たちは旧ソビエトで入手した膨大な秘密文書を元に取材を行い、その謎を明らかにしようとした。そこには、当時、ソビエト軍の 1 部隊の部隊長にすぎなかつたキム・イルソンが見いだされ、やがて「建国の父」となる過程が記されていた。私たちは、旧ソビエトを中心に多くの貴重な証言を撮影し、北朝鮮に関する映像も入手した。そこからキム・イルソンが、次第にソビエトからも離れ、独自の独裁体制を築き上げるまでの過程を浮き彫りにした。

YAHOO！で ‘NHKスペシャル ドキュメント 北朝鮮第 1 集 「個人崇拜への道」’ と検索すればその映像を見ることができる。

https://www.youtube.com/watch?v=l4ubl_sUngA

YouTube 中国語の字幕が邪魔である。

<https://blog.goo.ne.jp/blue-jewel-7/e/f379914603d6e62e69dfbc0ccb5ff390>

のブログは、文字化されている。

ソ連による北朝鮮解放

1945 年 2 月、ヤルタ会談で米・英・ソ連首脳はソ連対日参戦に関する極東密約（ヤルタ協定）を締結し、その中で戦後 朝鮮を当面の間 連合国 4ヶ国（米・英・華・ソ）による信託統治下に置くことを取り決めた。

1945 年 8 月 9 日、ヤルタ協定に基づいてソ連は対日参戦を行い満洲国及び朝鮮・咸鏡北道へ侵攻を開始する。8 月 14 日に日本政府はポツダム宣言を受諾し降伏する旨を連合国側に通告するが、ソ連の侵攻は 9 月 2 日に日本が正式に降伏するまで続き、満州（現中国東北部）・南樺太・千島列島及び朝鮮半島の北緯 38 度線以北（北朝鮮）を占領するに至った。

以後、番組の 19 分間を引用する。〔 〕=山根の意見

北朝鮮は、「金日成が朝鮮人民革命軍を組織して北朝鮮を武力解放した」と記録映画で主張している。朝鮮半島北部を占領したソビエト軍が作成した非公開の内部資料文書には金日成の経歴が記されている。

金日成は 19 才の時から、中国東北部、旧満州で抗日ゲリラ活動をしていた。その後、ソビエトのハバロフスクに逃れソビエト極東軍の 88 旅団に参加した。

88 旅団はソビエト軍が養成した朝鮮人と中国人の部隊である。記録映画では、金日成は朝鮮人民革命軍の司令官とされているが、ソビエト軍の文書では一部隊の部隊長となっている。

88 旅団を指導指揮していたソビエト極東軍の将校を探し出した。ワシーリー・イワーノフ（84 才）。

彼は、88 旅団で金日成の上官であり金日成に様々な戦術を教えた。金日成の主張する朝鮮人の軍隊の存在を即座に否定した。

——ワシーリー・イワーノフ（ソビエト極東軍）の証言

金日成の主張には賛成できません。朝鮮軍など存在しませんでした。存在しなかつた軍隊に金日成は命令したのでしょうか？

イワーノフは、朝鮮半島に侵攻したソビエト軍の戦闘に金日成は参加していないと証言した。

キム・イルソンたちは戦争に参加する準備をして参戦したいとアピールしました。しかし我々ソビエト軍の司令官は金日成を戦争に参加させませんでした。彼らは大した貢献ができないと判断したからです。

指導者金日成の登場

朝鮮半島北部を占領したソ連。ソビエトに友好的な政権をつくろうと考えたスターリンにとって、重要なのは誰を指導者に選ぶかと言うことであった。

指導者選びの任務を負った一人が、ソビエト軍の特別宣伝部長 グレゴリー・メクレル〔中佐〕であった。様々な候補者と面接し、能力だけでなくソビエトへの忠誠度を測った。

ソビエト軍の秘密文書の中に、メクレルの報告書がある。面接した政治家の一人、曹晩植〔チョ・マンシク 1882-? 1945年10月北朝鮮で朝鮮民主党を結成、朝鮮信託統治案に反対して軟禁され、消息不明となる〕は朝鮮のガンジーと呼ばれた63才の民族主義者。朝鮮の人々に最も知られた信望の厚い政治家であった。しかしメクレルは指導者としてふさわしくないと判断した。

——メクレルの報告書 曹晩植は反共産主義的である。表向きはソビエト指導部を支持しているように見えるが、実際には朝鮮人民とソビエトとの友好に反対している。彼は我々の信用に値しない。

メクレルも健在であり面会をした。その後96才で亡くなった。〔私は、テーブルの上に置かれたNHKのスタッフが持ち込んだであろう林隱著『北朝鮮王朝成立秘史』1982年自由社を見逃さなかった〕

——メクレルの証言 私はキム・イルソン（金日成）の能力を確かめるため、朝鮮の情勢に関し、様々な質問をしました。彼は長年海外で抗日活動を続けていたため、朝鮮のことは何も知らないと思っていました。しかし、金日成は私の質問にとても的確に答えました。

朝鮮の情勢に通じている人の答えでした。私はとても満足しました。

表紙写真 中央：金日成
右側：メクレル



メクレルは、金日成の存在を人々にアピールするため、ソビエト軍の歓迎集会を利用しようと考えました。

〔1945年10月14日平壌公設運動場で開かれた「ソ連解放軍歓迎平壌市民大会」のことである〕

数万人の観衆を前に金日成を抗日闘争の英雄として紹介したのです。このとき33才。しかし、人々は意外な反応を示しました。

——カン・インドク（歓迎集会に参加していた）〔康仁徳 1932年平壌生まれ。元韓国統一部長官〕の証言

キム・イルソン将軍という名前は知られていたため、かなり年を取った人が出てくると思っていました。

しかし、出てきたのは、単なる若者でした。〔解放前に朝鮮の新聞で金日成の名前は多く載っていた〕

人々は騒ぎ始めました。「あれは何だ、偽物じゃないか？」会場は大変な騒ぎになってしまいました。

〈ナレーション〉 偽物説が広がると指導者として受け入れられないのではないか？懸念を増したメクレルは策略を練りました。

——メクレルの証言 私は金日成に指示しました。貴方の故郷に行くと発表しなさい。希望者と一緒に連れて行きなさい。金日成は私の指示通り、故郷の訪問をラジオで発表しました。

〈ナレーション〉 故郷の人々と再会する金日成の写真です。メクレルはこの訪問を新聞でも宣伝し、偽物説を打ち消しました。メクレルの報告を受けた最高幹部がモスクワに送った秘密文書です。

金日成こそ指導者にふさわしいと結論づけている。

——（報告書の内容）金日成は、日本帝国主義に立ち向かった英雄として有名である。

彼の名は朝鮮人民の幅広い層に知られている。朝鮮で統一戦線を創設するとき、金日成をその指導者に据えるべきである。

ソビエトが撮影した戦後初の選挙の時の映像です。〔1946年11月3日人民委員会の代議員選挙〕

◆映像：演説する金日成 [17:56-18:19 23秒間]

メクレルから与えられた様々な指示を金日成は忠実に実行に移しました。

——メクレルの証言 私は金日成とあらゆる分野、あらゆる問題で行動を共にしました。

政治や党関連の重要な仕事を一緒に行いました。取るに足らないようなことでも私たちは常に一緒に行動しました。私はあらゆる場面で金日成を助け、金日成を育て上げたのです。〔19:05まで〕

1946年北朝鮮臨時人民委員会

金日成委員長

1946年1月からソウルで米ソが朝鮮での信託統治実施を巡って米ソ共同委員会予備会談が開かれる中、北朝鮮では全体を統括する朝鮮人の行政機関として2月8日に北朝鮮臨時人民委員会が設立された。

北朝鮮臨時人民委員会の委員長にはソ連軍の意向で満州派の金日成が就任した。これ以降、人民委員会は土地改革、重要産業の国有化、男女平等の推進等、社会主義体制への移行を本格的に進め、1950年朝鮮戦争までに一定の成果を上げた。



↑1946年2月8日に平壌で開催された北朝鮮臨時人民委員会成立慶祝大会の様子。太極旗と共にソ連以外の連合国国旗（英と華）も掲揚され、金日成の肖像画の上に掲げられた懸垂幕には、「臨時人民委員会は私たちの政府だ」と書かれている。

北朝鮮臨時人民委員会は立法組織と行政組織が併存しており、政府として未熟な面があったため1946年11月3日に立法府の議員を決める総選挙を実施し、1947年2月20日に立法組織として北朝鮮人民会議を新設した。

同日、北朝鮮臨時人民委員会を北朝鮮人民委員会に再編成して正式な政府体制が発足した。

北朝鮮人民委員会は、朝鮮の連合軍軍政期において、北朝鮮地区（北緯38度線以北の朝鮮半島）を統治した公式の行政機関である。

ソビエト連邦の占領行政（軍政）機関であるソビエト民政庁の下に人民委員会が設立され、後に建国される朝鮮民主主義人民共和国の土台となった。



↑北朝鮮共産党の第1回党大会に出席する金日成（中央）、金科奉（右から2番目）、メクレル（右端）壁にスターリンと金日成の肖像画。（1946年8月）

平和的民主建設時期の歌謡

北朝鮮で発行されたリ・ヒリム他著『解放後の朝鮮音楽』（1979年文芸出版社）によれば、時代区分として北朝鮮の創建時期である1945年～1950年を「平和的民主建設時期」と呼んでいる。

北朝鮮では、1945年解放直後には朝鮮人による創作曲は未だ作られなかった。

従来からの民謡『陽山道』（ヤンサンド・平安道民謡）、新民謡の『ノードル江辺（カンビョン）』や『朝鮮八景歌』等の明朗で軽快な民謡が盛んに歌われた。

北朝鮮では民謡『陽山道』は、地元を歌っている事もあり人気が高い。

翌年1946年2月8日に北朝鮮臨時人民委員会が設立されてから（1）政治的歌謡と（2）社会主義的民主改革を宣伝する歌謡が続々と創作された。

1946年に創作された政治的歌謡

『闘争歌』

1946年5月19日に「民主主義朝鮮の建設を妨害する民族反逆者、反動分子を打倒しよう」という米・ソ共同委員会に関連した金日成の演説がある。

その意味で『闘争歌』は、民族反逆者、反動分子を打倒するために歌われた歌である。

『闘争歌』（トウジエンカ・トゥサング）

作詞・作曲 金元均（キム・ウォンギュン）

（1）叫べ 進もうトンムよ 新朝鮮 民主の勇者よ
われらの進む道 ひとつだ 自由独立求めて

*闘おう 進もう 自由は人民の手に

この命 国に捧げた身 恐れるものは何もない

(2) 人民の敵は誰か 朝鮮を売る奴は誰か
 ファッショ帝国の奴らを 力いっぱい 叩き潰そう
 *闘おう 進もう 自由は人民の手に
 鉱山主の下僕も 怨みを わが手で晴らそう

(3) 叫べ 進もう みんないつしょに
 南朝鮮のトンムも 団結し
英明な金将軍を戴いて 民主朝鮮 建設に
 *闘おう 進もう 自由は人民の手に
 いつも勝利は われらのもの 人民の手に
 ここでは3番の歌詞に「**英明な金将軍を戴いて 民主朝鮮 建設に 闘おう**」とアジっている。金日成をリーダーとしてさり気なく持ち上げている。

『朝鮮行進曲』

新しい自由と平和な朝鮮を建設しよう、とスローガン的な行進曲もある。金日成は登場しない。

『朝鮮行進曲』(チョソル ハシソコク・조선행진곡)
 作詞・作曲 金元均

(1) むくげ三千里 夜があける
 新しい朝に 光明が輝く
 *進もう 前に 三千万のトンムよ
 前に 進もう わが朝鮮万々歳

(2) 自由と平和の旗をなびかせ
 新しい朝鮮を建設しよう
 *進もう 前に 三千万のトンムよ
 前に 進もう わが朝鮮万々歳

(3) (4) 省略

『闘争歌』と『朝鮮行進曲』を創作した金元均が『金日成将軍の歌』を作曲しているという点は注目に値する。金元均一人が政治的歌謡の専門作曲家となった。

『金日成将軍の歌』

1946年に創作された『金日成将軍の歌』も上記の2曲と同じく政治的宣伝のためのプロパガンダ歌謡という性格を帶びている。まさに、最初の金日成を個人崇拜する歌である。「楽譜1」参照。

『金日成将軍の歌』(キミルソンチャングネ ル・김일성장군의 노래) 李燦 (リ・チャン) 詞・金元均曲

現在の歌詞

(1)長白山うねうねと 血で染めた跡
 鴨緑江くねくねと 血で染めた跡
 今日も自由朝鮮の 花束の上に

歴々と照らす 高潔な跡
 *ああ その名も慕わしいわれらの將軍
 ああ その名も輝かしい金日成將軍

(2)満州の原野の吹雪よ 語れ
 密林の長々き夜よ 語れ
 万古のパルチザンが誰かを
 絶世の愛国者が 誰かを
 *繰り返し

(3)労働者大衆には 解放の恩人
 民主的新朝鮮には 偉大な太陽
 二十ヶ政綱の上に みんな団結して
 北朝鮮の津々浦々に 新しい春がくる
 *繰り返し

さて、『金日成将軍の歌』はどのように生まれたのであろうか？

先に述べたように金日成が最初に北朝鮮の人々の前に姿を見せたのは、1945年10月14日に平壌公設運動場で曹晩植を歓迎委員長とするソ連解放軍を歓迎する「平壌市民赤軍歓迎大会」であった。

金日成は「われらの解放と自由のために闘ったソ連軍隊に心から感謝する」という短い演説をした。



↑歓迎市民大会に参席した右から2番目曹晩植氏と4番目金日成将軍「写真集朝鮮解放1年」民衆新聞社新聞記事に金日成「將軍」の呼称

翌日に創刊された「平壌民報」(平壌で唯一の新聞)に編集局長の韓載徳 (ハ・ジェドク、後に韓国へ越南) は「金日成将軍歓迎 平壌市民群衆大会」という記事を書いた。

韓載徳は、「その記事で、私が初めて金日成を「將軍」と呼び「民族的英雄」と持ち上げた。「凱旋」という言葉も私が初めて使った」という。

樂譜 1 『金日成將軍の歌』

김일성장군의 노래

보통속도로

작사 리찬, 작곡 김원균

1. 장 백 산 줄 기 줄 기 피 어 린 자 익
압 - 록 강 굽 이 굽 이 피 어 린 자 - 익
오늘도 자유조선 꽃다발 우에 력 력 히비쳐주는 거룩한 자 익 아 - 익
그이름도 그리운 우리 의장군 아 - 익
그이름도 빛나는 김 일 성 장 군 아 - 익

2. 만주벌 눈바람아 이야기하라
밀림의 진진 밤아 이야기하라
만고의 빨찌 산이 누구인가를
절세의 애국자가 누구인가를
(후렴)

3. 로동자대중에겐 해방의 은인
민주의 새 조선엔 위대한 태양
이십 개정 강우에 모두다 뭉쳐
북조선 방방곡곡 새봄이 온다
(후렴)

小冊子に『金日成將軍の歌』楽譜発表

1946年8月15日、解放1周年を迎えて北朝鮮芸術総連盟（1946年3月25日結成）が『金日成將軍 賛揚特輯 われらの太陽』という小冊子を発行した。

その中で初めて『金日成將軍の歌』の楽譜が掲載された。「樂譜2」参照。（萩原遼編『北朝鮮の極秘文書』中巻232ページ 1996年 夏の書房）

樂譜2 『金日成將軍の歌』



鴨緑江くねくねと 血で染めた跡

今日も自由朝鮮の 冕旒冠の上に（花束の上に）

歴々と照らす 血で染めた跡（高潔な跡）

*ああ その名も慕わしいわれらの將軍

ああ その名も輝かしい金日成將軍

(2) 滿州の原野の吹雪よ 語れ

密林の長々き夜よ 語れ

万古のパルチザンが誰かを

絶世の愛国者が 誰かを

*繰り返し

(3) 勤労者大衆には 解放の恩人

(労働者)

民主の新朝鮮には 偉大な太陽

二十ヶ政綱の上に 蜂も蝶も集まり

(みんな团结して)

北朝鮮の津々浦々に 新しい春がくる

*繰り返し

の部分は、現在（ ）に変化している。

1番の歌詞の中で冕旒冠（めんりゅうかん・門羅冠）は 国王がかぶる冠のことであり統一教会の教祖の文鮮明がかぶっている冠も冕旒冠とよんでいる。こうした封建色がある用語は良くない、という事で変更されたのかも知れない。

3番の歌詞の中で、二十ヶ政綱（46年3月23日に金日成が発表した二十ヶ条の政綱）の上に 蜂も蝶も集まり（봉집도 뭉쳐）の部分は朝鮮人民を蜂や蝶に例えるのはまずい、と判断して後に訂正されたのかも知れない。

上記2ヶ所の訂正は、わが友であった故金英達（김·ヨンダル）さんの解釈である。

和田春樹著「北朝鮮－遊撃国家の現在」（74ページ 1998年 岩波書店）にも

「(1946年) 8月15日の祝日に向けて、金日成の個人崇拜がいっそう鼓吹された。作家韓雪野（ハ・ソルヤ）が委員長をつとめる北朝鮮芸術総聯盟が小冊子『金日成將軍 賛揚特輯 われらの太陽』を刊行した。これに韓載徳が「金日成將軍 遊撃隊戦史」を書き、李燦作詞、金元均作曲の「金日成將軍の歌」など3曲の金日成讃歌が発表され、6編の詩と韓雪野の短編小説「血路」、金士亮（金史良 カム・サヤン）の戯曲「雷声」が収録されている」との記述がある。

韓載徳と金史良の2人はともに北朝鮮芸術総連盟の執行委員であった。

北朝鮮芸術総連盟は同年（1946年）9月13日に北朝鮮文学芸術総同盟に改称される。李燦は1946年11月現在の名簿では書記長に抜擢されている。『金日成將軍の歌』を作詞した功績が認められたのであろう。

作詞した詩人 李燦

作詞した詩人 李燦(1910.1.15-1974.1.14) の経歴は次のとおりである。咸鏡南道咸興出身。1925年早稻田大学文学部卒業後、1930年から京城中央高等普通学校で教員。解放後、プロレタリア作家として活躍する。46年文芸総書記長。61年文芸総副委員長。

李燦は1947年9月5日に詩集『勝利の記録』(文化戦線社) を出版している。41編の詩の中に「歓迎・金日成將軍」(1946年4月20日於咸興) という『金日成將軍の歌』の原形になる詩が載せられている。

將軍が来られる事を誰も知らなかった

將軍が来られる事を誰も知っていた

將軍は分けられないわれらの光

將軍は隠せないわれらの太陽 [中略]

誰も將軍は若いといふ

そうだ 將軍は若い (われらの將軍が老いていなければならぬのか!) [後は省略]

(前掲 萩原遼編『北朝鮮の極秘文書』中巻 P236-P242)

金日成將軍贋物説を否定していく興味深い。

李燦は解放後、一時期咸興に帰郷したが 1946年4月以降に平壤に来て文芸活動を始めたようである。

李燦が1972年4月号『祖国』(日本で発行された朝鮮語版雑誌・金日成誕生60周年記念号) に美辞麗句の熱烈な文章を書いている。

「人民は父首領様をうたいます。燃える忠誠心と欽慕の情で歌う『金日成將軍の歌』」見出し。

「太陽の懷に抱かれ歓喜と感激の歌 詩人李燦」

奸惡な日帝侵略者たちに国を奪われ波瀾曲折と受難からわが民族を救う偉大な領導者への渴望は私だけでなく全ての朝鮮人民の切実な念願であった。

民族悲運の日々に英雄叙事詩的な抗日戦を組織領導された偉大な首領金日成將軍こそ真に朝鮮を暗黒と塗炭から救う民族の太陽である事を深く確信できた時の心情をどのように表現できるでしょうか。

私は崇厳な白頭の雄姿から万民の希望へ仰ぐ絶世の愛國者であり伝説的英雄である金日成將軍の面影が懐かしく、普天堡の夜空を燃やす革命の松明で祖国の江山を照らす再生の曙光を望み喜びに涙しました。

白頭山を牛耳って満州荒野の深い雪に日帝の軍や警察の奴らを襲った首領様の非凡な戦法と崇高な風貌についての話で高まる胸を抱き、眠れない夜は短くもありました。

空よりも高い徳望を備えた偉大な首領金日成元帥はついに準備した光復の新しい朝に祖国と同胞の燐然たる未来を担い凱旋されました。

民族の太陽である金日成元帥を歓呼の中で迎えた私は、長い歳月尊敬してきた父首領様へのわ
詩人 李燦
が人民の欽慕と忠誠の頌歌を必ず書かなければならぬ、という抑制できない衝動で筆を取りましたが、自身の鈍才と無能を痛く嘆いた時が一度二度ではなかったです。

しかし、世界の歴史に燐然と輝く父首領様の永久不滅の業績と偉大な感化力、首領様に対するわが人民の燃える忠誠心はそれ自体がもっとも美しく激動的な熱火の叙情であり、珠玉のような詩歌の音律でありました。

『金日成將軍の歌』の歌詞は決してある一人の詩人の靈感や芸術的思索の産物ではありません。それは父首領様へのわが人民の高度に高揚され昇華された欽慕の記録です。

『金日成將軍の歌』は一筋の太陽の光りも懐かしかった植民地奴隸の暮らしで苦役に打ちひしがれて 36 年ぶりに太陽の懷に抱かれ、自由の新しい朝を迎えたわが民族の涙の歓喜と感激の歌であり父首領への永遠に変わらない忠誠の歌です。

今日、父首領が行かれる場所には百の花が満開であり、喜びは絵のように咲き『金日成將軍の歌』の歌声がひびき、この国のいたる所で豊年の果物のように熟れた幸福が香り高いです。

そして、その歌声がひびくと人民の敵たちは仰天してわめき立てます。

喜びを人民に下さり、難関を切り抜けられる父首領様はこの土地に全世界が賛嘆の目で仰ぎ見る社会主義樂園を花咲かせました。

首領様がいらっしゃるので百回生まれても生きたい。千回も万回も命を賭けたい社会主义祖国です。

おー 太陽に仕えるこの幸福、この喜び、この栄光、この誇りを空の高さにたとえようか。土の重さにたとえようか。宇宙の体積にたとえようか！

人民の輝く太陽であり解放の恩人である金日成元帥様よ！ 千万年久しく万寿無疆であらせられよ！



選挙祝賀に『金日成將軍の歌』演奏

P 2でNHKが紹介した「ソビエトが撮影した戦後初の選挙の時の映像」〔1946年11月3日人民委員会の代議員選挙〕がFACEBOOKのDesignersparty(韓国歴史研究プロジェクト)というサイトで2019年4月10日にGeneral Election(総選挙)in Korea, August 1948(時間3分57秒)と年月を誤って紹介された。

<https://www.facebook.com/designersparty/videos/796124460767581/>

私が「このフィルムは1946年11月3日に北朝鮮で実施された道市郡人民委員会選挙(有権者の99.6%が投票)の時の映像です」と投稿して、ようやく副題
도시군 인민위원회선거 General Election in North Korea, November, 1946が付けられた。

このフィルムは投票する金日成や祝賀行進、お祭り騒ぎの映像である。ロシア語のナレーションに『金日成將軍の歌』(0:47-1:48)がBGMで演奏されている。

旧『愛国歌』(スコットランド民謡Auld Lang Syne(螢の光)・2:48-3:28)や太極旗等当時、南朝鮮と同じアイテムを使っていたことが分かる。

作曲家の金元均



作曲家 金元均 (1917.1.2-2002.4.5) は、江原道元山市出身。日本音楽学校中退。
46年北朝鮮音楽同盟書記長。
50年ソ連留学。
51年北と南統合により朝鮮音楽同盟常務委員。
59年モスクワ チャイコフスキーネーム音楽大学修了。

作曲家 金元均
61年功勳芸術家称号。
61年平壤音楽大学学長に就任。
70年朝鮮音楽同盟副委員長。
72年11月音楽家代表団長として東ドイツ訪問。
73年10月音楽家代表団長としてソ連訪問。
80年人民芸術家称号。ピパダ歌劇団総長。
82年2月最高人民会議第7期代議員。
86年11月最高人民会議第8期代議員。
89年李冕相(リ・ヨンサン)死亡で朝鮮音楽同盟委員長就任。
90年4月最高人民会議第9期代議員。
90年10月平壤で開催された「汎民族統一音楽会」準

備委員会副委員長。

代表曲:『金日成將軍の歌』、『愛国歌』(作詞朴世永1947年)、『民主青年行進曲』(作詞金リヨン1947年)をはじめ交響曲『郷土』歌劇、舞踊曲等

金元均も李燦の次に前述の1972年4月号『祖国』に『金日成將軍の歌』について文章を書いている。

「心臓の歌 忠誠の歌 功勳芸術家金元均」

偉大な太陽の歌、『金日成將軍の歌』を作曲したのは非常に手に余る事であった。元来 作曲家でなかった私の場合は特にそうであった。

しかし、虚しい歳月を待ちに待った革命の英才であり絶世の愛国者である民族の英雄 金日成元帥様を凱旋広場で迎えたわが人民の活火山のような欽慕の情の爆発と涙にまみれた祝福の歡喜は私をして幾夜もあかして『金日成將軍の歌』を作曲させた。

父首領様に対する同胞全民族の燃える敬慕の情と忠誠心は『金日成將軍の歌』の樂想になり大河の怒濤の流れのように荘厳な旋律になし遂げられたのである。

私は敬愛する首領 金日成元帥の直接的な指導と見守りの中で作曲家に成長して今日まで少なくない歌を作曲したが、『金日成將軍の歌』を書いた時の感激と恍惚とした心情をそのまま表現する適當な言葉を今まで見つけられない。

私は偉大な首領金日成元帥様の賢明な領導の下でわが人民が民主基地の基盤を固めて希望に燃えた日々からアメリカ帝国主義をぶっ潰した峻厳な時期と廃墟から社会主義工業強国を起こした誇らしい革命と建設の日々に歌った心臓の歌、忠誠の歌、栄光の歌『金日成將軍の歌』を作曲したその日の感激を抱いて一片丹心 首領様の作曲家として生きて闘います。

このように、金元均は「元来作曲家でなかった」と言っているのは興味深い。しかし、彼はこの歌を作曲した功績により李冕相に次ぐ北朝鮮音楽界でナンバー1の名声を勝ち取る事ができた。

2006年3月には平壤音楽大学を金元均名称平壤音楽大学に名称変更させるまで出世した。

以上のとおり『金日成將軍の歌』(作詞李燦、作曲金元均)は1946年8月に発表された。

その後の歴史が示すように金日成への個人崇拜が進展するとともに「不滅の革命頌歌」という冒しがたい最強の忠誠の歌になったのである。

今回は、拙著「1946年『金日成將軍の歌』」むくげ通信186号2001.5.27から多く転載しました。(続く)